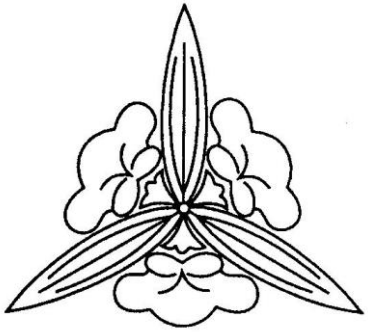
平成２９年度

「授業改善推進プラン」



武蔵野市立第一中学校

学力向上を図るための全体計画（平成29年度）

学力向上のための基本方針及び指導の重点

学力向上のための基本方針

全国学力・学習状況調査や東京都の学力向上を図るための調査の結果を踏まえ、定期考査や日常の授業の様子などを基に、生徒一人一人の基礎的・基本的な知識や技能の習得による確かな学力の向上を図るとともに、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。また、昨年度導入された電子黒板や今年度導入されたタブレット等をはじめ、ＩＣＴ機器の効果的な活用及び促進を図り、学力向上につなげるよう一層の工夫を加えていく。

指導の重点　個に応じた指導を展開しながら、効果的な指導方法の工夫と更なる指導内容の充実を図るために、以下を指導の重点とする。

1　国語科では、日常の言語環境・言語活動を整えることや生徒の能力に応じた個別の支援を充実させていく。また、発問に対する自分の考えを書く習慣を定着させ、粘り強く読み取る姿勢を培う。知識的な側面については、反復学習の機会を増やすことでその定着を図る。

2　社会科では、思考力・判断力・表現力を高めるため、ＩＣＴ教材などを多用して、五感に響くような教材や指導法を研究し授業に反映させていく。また、３年生については、「社会的な思考・判断・表現」の観点を中心に能力を高めるため、論述式の設問を小テストや定期考査に積極的に導入していく。

3　数学科では、計算力を確実に向上させるために多様な課題を取り上げ、既習内容の確認をしていく。また、図形分野では、ICT 機器や立体模型などを利用し視覚的に取り扱い、反復練習により定着を図っていく。習熟度別少人数授業を実施する中で、個に応じた指導の充実を図る。

4　理科では、高い関心を意欲につなげ、探求する面白さを体感することで、科学的な思考・表現や知識・理解の向上につなげていく。また、学習を深化させるために、思考の過程を分かりやすく提示したり、数式やグラフ、図など、いろいろな方法を用いて表現する工夫を行っていく。

5　英語科では、基礎・基本の定着を目指して授業を組み立てるとともに、習熟度を考慮した少人数授業を実施し、個に応じた指導の充実を図る。また今年度は昨年度に引き続き「自分の考えや意見を英語で伝え合う言語活動」を継続的に行い、表現力が更に高まるように指導の工夫を行っていく。

6　上記以外の各教科も、ICT 機器を活用し、生徒主体の学習活動や言語活動を取り入れた一層の授業改善を図り、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

本校の授業充実に向けた視点

指導方法･指導内容の工夫	評価活動の工夫	校内研修･校内研究の工夫	その他の工夫
1　全教科が言語活動を一層充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を目指し、授業の工夫・改善を図る。 2　記述問題を定期的に課し、文章で根拠等を示すような論理的な表現を丁寧に指導する。 3　ＩＣＴ機器を積極的に活用し、生徒の発見、理解の促進、あるいは興味･関心を高める等、効果的な利用を図る。	1　各教科における「思考・判断・表現」の評価規準の見直し、学校全体としての評価方法を統一するための研修を深めていく。 2　評価結果を教育相談等にて生徒、保護者に提示し、具体的な助言を行う。 3　各学期始めに学習内容・評価基準・評価方法を示した冊子を生徒・保護者に配布する。 4　各学期各教科の評価・評定を成績会議にて総点検し、その信頼性を高める。	1　言語活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成する授業の構築及びその評価方法の工夫をねらいとした研究授業を全教員が行い研鑽を深める。 2　総合的な学習の時間や行事の取組を言語活動の視点で捉え直し、思考力・判断力・表現力を育成し、課題解決能力を一層高めていく。	1　プレゼンテーション力やコミュニケーション力の向上を図るため、全学年、ポスターセッションを行う。 2　全学年、夏季休業中に学習補充教室を実施し、基礎・基本の定着を図る。 3　年２回の読書週間を設定し、豊かな心や情操をはぐくみ、知的好奇心や表現力等を育成する。 4　学習支援教室や学習相談を充実させ、学習指導員やＴＴ・ＴＡの活用により、基礎・基本の定着及び発展的学習の取組を支援する。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・国語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 「読むこと」「言語事項」を中心とする期末考査の平均正答率は71.9%であった。「言語事項」は全体的に正答率が高く、「読むこと」の正答率には二極化がみられる。 授業に臨む姿勢は良好である。発言は多いが、発言者が固定化しつつある。提出物の未提出者も決まっているので、このことが正答率の二極化にも影響していると考えられる。 ２　観点別分析 ①　話す・聞く能力 平均達成率は72.5%である。スピーチの構成を意識して、メモをもとに話すことができる生徒が多かった。一方で、聞き手と自然にアイコンタトが取れる生徒が少なかった。 ②　書く能力 書くことに抵抗があり作文に苦手意識を持つ生徒が３割程度いる。そのため誤字、脱字、文法上のミス、原稿用紙の使い方の誤りなど基本的な間違いが多い。例文を示すと概ね書くことができる。 ③　読む能力 平均達成率は76.98%である。説明文において、段落の役割を読み解く力に課題がある。また、物語においては、人物同士の関係をとらえることに課題がある。 ④　言語についての知識・理解・技能 漢字の小テストは毎回８割程度の出来である。ただし、短期記憶で乗り切ろうとしている。	１　内容別の指導方法について 基本的な事を飛躍せずに一つ一つ指導しているので、「言語事項」の定着率が高い。発問を工夫し、活動の多い授業を心掛けているので、興味をもって取り組んでいるようである。学んだことを一問一答の知識として終わるのではなく、考える材料として発展させていくことが課題である。 ２　観点別の指導方法について ①　話す・聞く能力 ペアスピーチなどでは自然に話すことが出来ているので、場に慣れる経験を積ませる必要があると思われる。 ②　書く能力 書く内容を互いに出し合って共有した。また例文を示したのでほぼ全員が書くことができた。ただし、例文の模倣に終始している生徒が大半である。 ③　読む能力 物語では時、人などの基本設定を正しく押さえること、説明文では各段落の働きを、段落内で使われている言葉から考えるように指導した。学んだことを活用し、理解しているかを確認する機会が必要である。 ④　言語についての知識・理解・技能 知識だけに偏らないようにエピソードを交えて解説をし、興味を持たせる工夫をしている。しかし、暗記になると毎日地道に覚えるのではなく、直前に覚えて乗り切っている。そのため同じ間違いを繰り返す傾向にある。短期記憶によらない知識の定着を工夫したい。	１　内容別の授業改善について 学んだ知識を生かして考え、考えたことを各人が発表できる授業を工夫したい。発問と活動を更に多くしていきたい。一部の生徒が発表して終わりではなく、すべての生徒が発表できるような授業展開を心掛ける。 漢字などの基礎的事項については、一学期に続き毎週の小テストを継続していく。 ２　観点別の授業改善について ①　話す・聞く能力 日常から相手意識をもった話し方について丁寧な指導を行っていく。ペアスピーチなどの帯単元の活動は継続する。また、他人の話の要点をとらえる、疑問をもって聞く、ということについてもトレーニングをしていく。 ②　書く能力 簡単な課題を出して短い文章を多く書き、書くことへの抵抗をなくしていく。課題を通じて書く技術の定着を図り、表現力を磨く。 ③　読む能力 文章中の基本的な事柄をきちんと押さえ、それを読解に生かせるようにする。その際、一つの事柄だけではなく、いくつかを組み合わせて文章を読み取るように、指導していく。 ④　言語についての知識・理解・技能 小テストのやり方を工夫していく。一度小テストをしたらおしまいではなく、間違いが多かったものだけ再びテストするなど、繰り返し復習をしてきちんと定着していないと得点できないテストを行う。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・社会科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 学習の様子は、挙手しての発言や指導に対する反応の良好さなど、全体的に落ち着いており、学習意欲も比較的高いと思われる。一方で、授業中に集中力に欠ける場面も時々見られた。 一学期の定期テストの結果を見ると、中学校の定期テストへの対応にまだ不慣れなため、テストに向けた学習の取り組みが不十分な状況が見て取れた。 **２　観点別分析** ① 社会的事象への関心・意欲・態度 上述の様に、学習意欲は全体的に良好であり、授業態度も良い。 ② 社会的な思考・判断・表現 自分なりの意見を表明することは概ねできるが、社会的事象をとらえて思考・判断する『社会科力』は、今後の成長を図る段階にあり、中学三年間の最重要課題のひとつである。 ③ 資料活用の技能 資料の作成や読み取りなど、小学校段階で育てた力は概ね身に付いていると思われるが、一歩進んで複数の資料を用いての関連を読み取るなどに今後の取り組みを必要とする面がみられる。 ④ 社会的事象についての知識・理解 概ね小学校段階での「社会的事象についての知識・理解」はできていると考えられるが、様々な事柄の中から理解すべき重要な知識とそうでない部分が雑多に混在しており、中学社会科の内容として踏まえておかなければならない基礎的・基本的で重要な知識・理解を育てることが求められる。	**１　内容別の指導方法について** 「社会科は暗記すればいい」と誤解している生徒も多く、そのため単なる「暗記」に偏り、内容のきちっとした理解に至ることなく済ませている様子が見られた。その姿勢が、授業での集中を欠く場面にもつながっていると考える。地理的分野での「時差」や「雨温図」などの問題、歴史的分野での歴史的意義に関する問題など、一定の思考を求められる内容に対しては、十分な時間を用いて丁寧に指導したにもかかわらず全体的な理解度が不十分であった。 **２　観点別の指導方法について** ① 社会的事象への関心・意欲・態度 左記の様に、学習意欲は概ね良好であるが、より一層高めるため、生徒にとっての『現実感』を持たせる工夫を行う。 ② 社会的な思考・判断・表現 一年次では、地理的分野での世界地理学習による全地球的視野からの視点を習得し、歴史的分野での原始から中世学習による歴史的変遷を学習して歴史の前半を理解することで、広い視野の習得を目指す。その中から、前述の思考・判断する力を育てる。 ③ 資料活用の技能 地理・歴史的分野ともに、様々な資料を精選し的確に授業に用いることで、活用力を育てる。 ④ 社会的事象についての知識・理解 生徒にとって何が重要で何がそうでないのか、わかっていないことが多い。前述の様に、『社会科力』にとって重要な知識・理解は何か、生徒に分かりやすい指導を実施する。	**１　内容別の授業改善について** 左記の様に、「社会科は覚えればよい」と思っている生徒たちに対して、広い知識や理解の上に立って思考・判断する力の重要性を理解させ、育てたい。そのため、授業でも思考・判断する力を育て、きちっとした理解に至る場面を重視して指導する。また、定期テストでも意図的に思考・判断する力に関する出題をするなどして取り組む。 **２　観点別の授業改善について** ① 社会的事象への関心・意欲・態度 左記の様に、『現実感』を生徒に持たせることが、関心・意欲を高める重点であると考えるので、「私たちの社会」「自分とつながりのある社会」と実感できる授業、実物教材等による「歴史との接触」を実感できる授業を行う。 ② 社会的な思考・判断・表現 上述の『現実感』を持たせた授業の中から、社会科を「自分とつながる諸事象を考える教科」として捉えさせ、それによって思考力・判断力を育てる取り組みを行う。 ③ 資料活用の技能 「授業プリント」の改善を実施する中で、左記のように精選した的確な資料などを用いて、指導を行う。 ④ 社会的事象についての知識・理解 知識については、重要度に応じて４ランクに分けて表示し、生徒に分かりやすく伝える。さらに、ワークブックを定期テストと関連させて取り組ませ、基礎・基本の定着と自主的な家庭学習の力を育てる。それらによって、「明日を生きる」生徒たちに必要な知識・理解を育てる。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・数学科　　**武蔵野市立第一中学校**

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 「数と式」では、「正負の数」や「文字と式」の計算処理の問題の正答率はとても高い。ただ、数学的用語や性質などの正答率や思考力を問う問題の正答率はやや低く、今後の課題になると考える。 「図形」の領域については、二学期以降に扱うため、資料がなく定着状況を分析できないが、昨年までの傾向としては、空間的な認識や比例・反比例の意味、特徴などの読み取りの部分が弱い傾向にある。 **２　観点別分析** ①数学への意欲・関心・態度 授業への取り組みは概ね良く、教師の発問に対しても意欲的に考え、発言する生徒が多い。宿題などの提出状況も良い。 ②数学的な見方や考え方 論理的な思考を必要とする問題にも、意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、考え方等の定着はやや不十分である。 ③数学的な技能 計算については、整数を扱った問題については正答率が高いが、分数・小数を含む計算に関しては正答率も低くなり、今後の課題である。 ④数量や図形などについての知識・理解 数学的用語・定理や性質などの定着は不十分で、もっと高めていきたい。	**１　内容別の指導方法について** 「数と式」に関しては、数学的な用語・公式・定理の内容把握を深めるとともに、多様な解き方を引き出すような指導を大切にしていきたい。「数量関係」に関しては、ともなって変化する２つの数量について、数学的に規則性をとらえる際、日常における様々な事例を扱うことを大切にしたい。「図形」に関しては、特に空間図形の内容把握を深めていきたい。また、数学的な用語・定理・性質を理解させ、それらの具体的な利用方法を理解させ、定着させたい。 **２　観点別の指導方法について** ① 数学への意欲・関心・態度 通常の学習時間の中で、様々な数学的事象に関連づけ数学的興味を喚起できるよう今後も指導していく。 ② 数学的な見方や考え方 問題の内容を正確に把握させ、焦点を絞り、何を問われているかを理解させるとともに、根拠となる性質や定理を確認させていく。 ③ 数学的な技能 復習課題や小テスト等を利用し、内容の定着状況を確認しながら進める。 ④ 数量や図形などについての知識・理解 機会あるごとに用語・公式・性質・定理の確認を行うとともに、それらが成り立つ根拠を理解させる。	**１　内容別の授業改善について** 「数と式」に関しては、計算力を確実に上げさせると共に、多様な課題を取り上げ、既習内容の確認をしていく。「数量関係」では、日常生活の中から多くの事象を扱っていく。「図形」では、作図、平面・立体図形、展開図等の作成を通して、体験的に理解させる。ＩＣＴ機器の活用や図解による解説を多く取り入れるとともに、反復練習により定着を図る。 また、習熟度別少人数授業の良さを生かし、各コースともより効果的な内容となるよう、課題を精選し個々の生徒に応じた指導を行う。 **２　観点別の授業改善について** ① 数学への関心・意欲・態度 日常生活の中から多くの事象を扱い、数学的興味を喚起させる。 ② 数学的な見方や考え方 個々の生徒の実態に合わせた課題の工夫をしていくとともに、問題解決への方法を図・表・ＩＣＴ機器を利用して説明し、理解させていく。 ③ 数学的な技能 計算処理については、演習を多く取り入れ確実に定着させたい。 ④ 数量や図形などについての知識・理解 機会あるごとに数学的用語・性質・定理の確認をし、それらを根拠として利用する演習も取り入れる。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・理科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 「花のつくりとはたらき」「葉のつくりとはたらき」「身のまわりの物質とその性質」の各分野ともに学習の定着状況は良い。 ２　観点別分析 ①　自然現象への関心・意欲・態度 達成率の平均は 88%であった。授業に前向きに取り組んでおり、関心・意欲が高い。提出物の提出も良好である。 ②　科学的な思考・表現 達成率の平均は 61%であった。科学的に考えること、考えたことを言葉やスケッチなどで表現することができる生徒と苦手な生徒の差が大きい。 ③　観察・実験の技能 達成率の平均は 71%であった。観察・実験に積極的に取り組んでいるため、顕微鏡などの実験器具の操作や実験の手際は観察・実験を重ねるごとに良くなっている。 ④　自然現象についての知識・理解 達成率の平均は 74%であった。関心・意欲の高さと相まって知識の高い定着につながっている。	１　内容別の指導方法について どの分野の内容についても、理科に対する関心は高い。ただおもしろいで終わることなく、「どうしてそうなるのか」ということを探求していくおもしろさを体験させていくことが必要である。 ２　観点別の指導方法について ①　自然現象への関心・意欲・態度 自然現象への関心・意欲はとても高く、他の観点にどうつなげていくかが課題である。また、安全に観察・実験を行う態度、生命尊重や自然愛護の態度を養うことも重要である。 ②　科学的な思考・表現 観察・実験の目的を明確にし、常に意識させる。授業や観察・実験レポートを通じて考えたことを表現する場面を多くつくり、科学的な思考の充実を図る必要がある。 ③　観察・実験の技能 観察や実験を多く行い、実際にスケッチや実験器具の操作を行う機会をより多く与えることが必要である。 ④　自然現象についての知識・理解 関心・意欲をかきたて、知識・理解につなげていく指導の工夫が必要である。	１　内容別の授業改善について 化学・物理分野では、グラフや作図、計算などに多くの生徒が苦手意識をもちやすい。演習の時間を十分確保していく。「目的を理解し、観察や実験を行う→いろいろな方法で結果をまとめる→結果を考察し、法則や仕組みを見つけ出す」といった流れの中で探求するおもしろさを体感させ、関心・意欲を引き出し、学習を深化させていく方法を学ばせる。 ２　観点別の授業改善について ①　自然現象への関心・意欲・態度 身近な現象や身近な物の中から例を挙げ日常生活との関連付けを行い、演示実験だけでなく少人数の班や個別での実験を多く取り入れていく。 ②　科学的な思考・表現 授業や観察・実験レポートを通じて、スケッチで表現したり、考えたことを言葉や図に書いたりすることや、考えたことを発表する場面を多くしていく。 ③　観察・実験の技能 観察・実験を多く取り入れ器具の操作に慣れさせる。観察・実験の目的や方法を生徒に十分理解させるとともに、実験中は全体を見渡し、それぞれの班の様子を観察し、その場に応じた個別指導をする。 ④　自然現象についての知識・理解 学習方法の確立、日常の家庭学習の習慣化などについて更に指導する。演示実験や実物・模型を使って説明することや、板書やワークシートを工夫して理解を深めていく。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・英語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 アルファベットの読み書き、身近な単語を読むことや聞くこと、教科書の音読については定着してきている。しかし、既習の単語や文を書くことについては課題が残る。 ２　観点別分析 ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 英語に対しての関心・意欲は高く、授業でも積極的に声を出している生徒が多い。一方、宿題等の家庭学習への取組には課題が残る生徒も少なくない。 ②外国語表現の能力 １学期の評定資料での達成率の平均が６４．８％だった。挨拶や簡単な会話の定着は図られているが、書くことについては課題が見られる。アルファベットが定着し、黒板や教科書の文を正しくノートに写すことができるようになってきた。しかし、単語、基本文の書き取り練習が十分でないことで、発展的な表現につなげられない生徒が多い。 ③外国語理解の能力 １学期の評定資料での達成率の平均が８２．８％だった。日常生活の身近な単語、曜日、日付、天候等を聞いて理解することができる。また、授業内での教師の英語(Teacher Talk)や外国人講師の簡単な説明も概ね理解している。 教科書の音読、暗唱にも積極的に取り組んでおり、教科書の内容の理解も概ねできている。 ④言語や文化についての知識・理解 １学期の評定資料でのこの観点の達成率の平均が７３．１％だった。フォニックスにより、音声面での語彙の習得に時間をかけたが、定着が十分とは言えない。また、基本文の構造の理解にも課題が残る生徒が少なくない。	１　内容別の指導方法について 第１学年では、教科書の音読やリスニングなど音声面を重視し、指導を行っていく。授業内では音読練習に重きを置き、音声を中心とした反復活動を通して基礎・基本の定着を図っており、成果が見られる。今後、その基礎、基本を元に表現活動の機会をさらに増やし、表現力の向上を図る必要がある。また、基礎的な文や語彙を書くことについての指導の強化が求められる。 ２　観点別の指導方法について ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 英語への意欲をさらに高めるため、互いに学び、認め合う集団作りを目指していく。また、家庭学習の習慣の定着のための多様な工夫を取り入れていく必要がある。 ②外国語表現の能力 教科書音読・暗唱のさらなる充実を図った上で、教科書の基本文を元に表現活動の機会を増やしていく必要がある。また、書いて多様な表現ができるよう、単語、基本文の反復練習に力を入れていく必要がある。 ③外国語理解の能力 リスニング教材の活用を始め、授業内での教師の英語(Teacher Talk)の工夫、外国人講師の活用を充実させ、理解を深めていく。また、初見の文を自分一人で読み進める指導なども段階的に取り入れ、さらなる理解力の向上を目指す。 ④言語や文化についての知識・理解 語彙や基本文法の定着を重視して授業を行い、理解を確認する必要がある。また、教科書内容から各国の文化に触れるよう指導を心がける。	１　内容別の授業改善について 教科書の音読を重視し、反復練習の上に暗唱をしていく。ペアワークなどの活動の機会を増やすとともに、外国人講師との面接テストやスピーチなども取り入れ表現を豊かにしていく。また、「書くこと」についても、基礎的な文、語彙を中心に、ビンゴ、単語テスト、ノートまとめなどによって基本的な表現を定着させていく。 ２　観点別の授業改善について ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 今後も英語の歌やビンゴ、ペアワークなどを活用し、生徒の活動中心の授業を心がける。また、家庭学習習慣の定着のため、わかりやすい説明、継続的、段階的な課題の提示をしていく。 ②外国語表現の能力 教科書音読を中心に基礎的な英語表現を身に付けさせながら、実際の使用場面をイメージしたペアワーク等に取り組む。外国人講師との面接等を学期ごとに設定する。単語テスト、ノートまとめを中心に、語彙から英文を組み立てる力を身に付けさせる。また、聞いたことを書き取る活動や学んだ文型を使った英作文等にも取り組んでいく。 ③外国語理解の能力 リスニング問題などを定期的に活用し、聞く力をつけていく。また、外国人講師による物語、面接の活動も定期的に行う。さらに、英文読解の力を高めていく。 ④言語や文化についての知識・理解 今後もフォニックスや単語テスト、スペリングコンテストを実施し、語彙数を増やす指導を行う。また、英語通信、ワークなども活用し、基本文の構造理解も深めていく。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第２学年・国語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 平成 29 年度東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査（以下「学力調査」とする)」の結果、国語総合の平均到達度は 77.3%であった。 正答率の度数分布は幅広くなっており、学力にばらつきが大きいことが読み取れる。 ２　観点別分析 ①話す・聞く能力 学力調査の達成率は 69.0%とわずかに都の平均点を下回る結果となった。日常の学習状況も踏まえると、人の意見をしっかりと「聴くこと」に課題があると考えられる。 ②書く能力 学力調査の達成率は 77.1%と、都の平均を 7%ほど上回る結果となった。自分の意見を根拠をもって書くことができる生徒は多いが、主張と根拠の論理的なつながりが弱い生徒が一定数みられる。 ③読む能力 学力調査の達成率は 65.8%であり、都の平均を上回った。しかし、説明文・物語文ともに基礎的な語彙が不足しており文章を読み込めない生徒が多い。また、文脈に沿って心情を読み取ることが苦手な生徒が多い。 ④言語についての知識・理解・技能 学力調査の達成率は 79.8%であり、都の平均をわずかに上回った。しかし、期末考査などでは漢字・文法などの得点に大きな差がついており、得点の低い生徒が固定化する傾向がある。	１　内容別の指導方法について 日常の授業の中で、個に応じた指導が徹底できているとは言い難く、授業に取り組む意欲を欠く生徒に十分に目が行き届いていない。また、そのような生徒の数が 2 割程度とかなり多いことも課題である。 ２　観点別の指導方法について ①話す・聞く能力 話を集中して聞く、疑問や自分の意見をもちながら聞く、という部分には課題が残る。また、聞き手を意識することが出来ていない生徒が多く、相手意識をもたせることが課題である。 ②書く能力 書く意欲の低い生徒に対して、型や例文を示すなどの指導の工夫を行ってきたが、個に応じた指導が行き届いているとは言い難く、意欲の喚起に至っていない。また、主張と根拠の論理的なつながりが弱い生徒が一定数おり、論理的な思考力を育む必要性があると感じる。 ③読む能力 心情の読み取りについては、心情を表す語に注意して読解を進めてきたが、読書量や語彙力による差が大きく、文脈から心情を読み取れない生徒が多い。自分の意見がもてない生徒が一定数いることも課題である。 ④言語についての知識・理解・技能 文法に苦手意識をもっている生徒が多く、また漢字も含め反復学習の習慣が定着していない生徒が一定数いる。これらの課題を克服させる指導の工夫が必要である。	１　内容別の授業改善について 基礎・基本に絞った家庭学習課題を準備することで、国語が苦手な層に一層の定着を図るとともに、家庭学習の習慣を定着させたい。 加えて、生徒が意欲的に取り組める学習課題や教材の選定に取り組んでいく。また、日常の授業観察から、視聴覚教材への興味・関心が高いことが見て取れる。ICT 機器の効果的な活用についても工夫していく。 ２　観点別の授業改善について ①話す・聞く能力 相手の立場に立って聞く・話すということを、「話す・聞く」の単元だけではなく、日常から意識できるよう指導していく。 ②書く能力 文章の型や例を示すことで、抵抗なく生徒が課題に取り組んでいけるよう教材の工夫を行っていく。また、生徒の書く意欲を喚起するテーマ設定の工夫も行っていく必要があると考える。 ③読む能力 発問に対して「自分の考え・意見」を書かせる活動に継続して取り組む。また、ビブリオバトルなど楽しみながら様々な本に触れる活動を取り入れていく。 ④言語についての知識・理解・技能 日頃から漢字の使用を意識させることが第一である。短文であっても書く機会を増やしていく。また、文法や古典については反復学習や補充授業の機会を設ける。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第２学年・社会科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 今年度実施した東京都の学力調査の正答率は、60%を超えており、基本的な学力は概ね身に付いている。全体的に、複数の資料を読み取った上で、正答を考え導き出す問題や、小学校で学習した公民的分野に関わる問題、歴史の並べ替え問題などで正答率が下がる傾向がみられた。地理では、都道府県名や県庁所在地名を解答する問題の正答率が最も高かった。一方、都道府県名と県庁所在地名を逆にして解答する等の不注意もみられた。他に、短文記述の正答率は高く、意欲的に解こうとしていた。一方で、思考力・判断力・表現力を問う選択問題は、正答率が低い。歴史では、一問一答形式の問題の正答率は高かったが、歴史の流れを理解した上で、考え、判断する問題で正答率が下がった。 **２　観点別分析** ①　社会的事象への関心・意欲・態度 都の平均正答率は 74%だが本校では 82.5%であり良好である。意欲的に解答しようとしている。 ②　社会的な思考・判断・表現 都の平均生徒率よりも 10%ほど本校では上回っており良好である。選択問題の正答率は他に比べると低いが、短文記述問題の正答率は高い。 ③　資料活用の技能 本校では、都の平均正答率を 10%だがほど上回っており良好である。複数の資料を比較して解く問題では、正答率が下がる。 ④　社会的事象についての知識・理解 これも都の平均正答率を 5%ほど本校では上回っているが、やや二極化の傾向がある。	**１　内容別の指導方法について** 地理では、教科書に掲載されている統計資料やグラフのタイトルを読み、その資料が意味することを読み取るような学習を日常的に行っている。　また、基礎的な知識の定着を重視し、ワークシートや問題集を学習することによって、確認している。また、家庭学習のために、ワークシートや調べ学習の課題、ノート提出を設定し、定期考査の終了後、チェックし、日々の学習を促している。思考力・判断力・表現力を培うために、授業時の発問を工夫し、発言時には根拠をもって考えることや、問題に正対し、正しい文章で答えることを促している。歴史においては、ＤＶＤなどの視聴覚教材を使用し、時代の大きな流れをつかみやすくしたり、資料集を使用し資料を読み取る際のポイントを示唆しながら、資料の利用に取り組ませた。全体として、複数の資料から考える力や、選択問題・正誤問題で正しく判断する力の育成が課題である。 **２　観点別の指導方法について** ①　社会的事象への関心・意欲・態度 授業時の発言やノートに自主的にメモをとることなどを促す。 ②　社会的な思考・判断・表現 自分の考えを文章化することや、根拠をもって考えることを指導する。 ③　資料活用の技能 毎時間資料にあたらせ、それぞれの資料が意味することを注意深く読み取るよう指導する。 ④　社会的事象についての知識・理解 定期考査の正答率は高いが、長い期間で見た時に知識が定着しているかが課題として残る。	**１　内容別の授業改善について** 資料を読み取る力や、選択問題・正誤問題等で正答を導き出す力を育み、知識をしっかりと定着させる指導を行っていく。全体としては、資料集を継続して意識的に使用していく他に、既習事項を定期的に復習する機会を設けていく。 地理では、授業内でも複数の資料を用いて一つのテーマや問いに沿って考えさせる活動を行う。また、生徒が自らの知識や、資料から読み取った情報を、整理して解答できるよう、場面ごとに丁寧に指導していく。また、ワークシートや、ワークブックへの取り組みを積極的に促し、定期考査を終えても、生徒の記憶に定着させるように工夫していく。 歴史では、時代ごとの特色を整理することに加え、テーマごとに流れを整理し、縦横両方向で歴史をとらえられるようにする。また、小テストの機会を増やし、知識の定着を図る。 **２　観点別の授業改善について** ①　社会的事象への関心・意欲・態度 視聴覚教材等を工夫し、生徒の授業への参加意欲を促す。提出物については、根気よく指導していく。 ②　社会的な思考・判断・表現 授業時に考える機会を設け、考えて書く活動を積極的に行っていく。 ③　資料活用の技能 複数の資料を用いて考える等の活動を工夫し、資料活用技能の向上を図る。 ④　社会的事象についての知識・理解 日々の授業内でも既習事項を復習し、知識を積み重ねていけるようにする。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第２学年・数学科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 今回７月に行われた都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を領域別にみると、次のようなことが分かる。 「教科の内容」に関しては、都の平均 60.2%に対して 65.7%で+5.5 ポイントであった。また「読み解く力」に関しては都の平均 35.3%に対して 37.9%で+2.6 ポイントであった。以上のことから、十分とは言えないが、基本的な学習事項は定着していると考えられる。 ２　観点別分析 ①　数学への関心・意欲・態度 同調査の結果を見ると、都の平均正答率 85.7%に対し、本校は 88.7%で+2.0 ポイントと概ね良好である。今後もこの姿勢を継続させていきたい。 ②　数学的な見方や考え方 同調査の結果を見ると、都の平均正答率 48.1%に対して本校は 52.1%で+3.0 ポイントであった。都の平均と比べやや高いがまだ改善点が多くあるように思われる。日々の指導の中で様々な解法を教えるよう心がけていきたい。 ③　数学的な技能 同調査の結果を見ると、都の平均正答率 59.6%に対して、本校は 66.9% で+7.3 ポイントである。概ね良好であるが、計算ミスが目立つ生徒もいるので、計算練習等を今まで以上に行っていきたい。 ④ 数量や図形などについての知識・理解 同調査の結果を見ると、都の平均正答率 61.3%に対して、本校は 63.9%で+2.6 ポイントであった。定義などの理解に課題があると思われるので、細かい指導を図っていきたい。	１　内容別の指導方法について 「数と式」に関しては数学的な用語・公式の内容把握を深めるとともに、多様な解き方を引き出すような指導を大切にしていきたい。 「関数」に関しては、数学的に規則性を捉える際、日常における様々な事例を扱うことを大切にしたい。 「図形」に関しては、数学的な用語・性質・定理を理解させ、それらの具体的な利用方法を理解させ、定着させたい。また、空間図形の内容把握を深める指導を大切にしたい。 ２　観点別の指導方法について ①　数学への関心・意欲・態度 授業の中で、様々な数学的事象に関連付け、数学的興味を喚起できるように指導する。 ②　数学的な見方や考え方 問題の正確な内容を把握させ、焦点を絞り、何を問われているかを理解させるとともに、根拠となる性質や定理を確認させていく。 ③　数学的な技能 復習課題や小テスト等を利用し、内容の定着状況を確認しながら進める。 ④　数量や図形などについての知識・理解 機会あるごとに用語・公式・性質・定理の確認を行うとともに、それらが成り立つ根拠を理解させる。	１　内容別の授業改善について 「数と式」に関しては、計算力を確実に定着させるとともに、多様な課題を取り上げ、既習内容の確認と多くの解決方法を示していく。「関数」に関しては、日常生活の中から多くの事象を扱い理解させる。また、表・式・グラフの関係を大事にしながら特徴を理解させる。「図形」に関しては、ICT 等を利用して、図解による解説を多く取り入れる。特に空間図形に関しては、立体模型などを利用して指導する。また、証明問題などは、反復練習により定着を図る。 今後も習熟度別授業を行っていく中で、各コースともより効果的な内容となるよう、課題を精選し個々の生徒に応じた指導を行う。 ２　観点別の授業改善について ①　数学への関心・意欲・態度 日常生活の中から多くの事象を扱い、数学的興味を喚起させる。また、宿題などの提出を徹底するよう指導する。 ②　数学的な見方や考え方 問題を図・表などに表し、そこに具体的な要点を記入させることにより、問題を理解させ解決へ導いていく。また、簡単な文章題を理解させ、類題によって徐々に高度な問題まで理解できるようにする。その際、式の立て方を何通りか提示することなども配慮していく。 ③　数学的な技能 計算処理については、演習を多く取り入れ確実に定着させる。単元ごとに小テストなどを行い、定着状況の把握も行う。 ④　数量や図形などについての知識・理解 機会あるごとに数学的用語・性質・定理・公式の確認をし、それらを根拠として利用する演習も取り入れる。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第２学年・理科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 都の学力向上を図るための調査では、正答率の平均は「取り出す力 76.2%」「解決する力 63.7%」と都の平均をそれぞれ上回った。「読み取る力 30.4%」と都の平均を下回った。読み取る力や表現する力が低いと、知識や考えたことをうまく表現できず、思考や知識・理解、解決する力にも影響して、正答率の低下につながると考えられる。自然現象への関心が高いが、教科の内容や読み解く力の向上につながっていない。 ２　観点別分析 ①　自然現象への関心・意欲・態度 都の学力向上を図るための調査では、正答率は 88.7%で都の平均とほぼ同じであった。提出物の提出も良好であるが、提出しない生徒が固定化している。 ②　科学的な思考・表現 都の学力向上を図るための調査では、正答率は 49.3%で低い。読み取る力の低いことが影響していると考えられる。しかし、都の平均よりも上回っている。 ③　観察・実験の技能 都の学力向上を図るための調査では、正答率は 90.5%と極めて高く都の平均を上回った。観察や実験を多く取り入れている成果である。 ④　自然現象についての知識・理解 都の学力向上を図るための調査では、正答率は 53.4%で都の平均とほぼ同じであった。さらに、基礎・基本の定着を充実させていく必要がある。	１　内容別の指導方法について どの分野の内容についても、理科に対する関心は高い。関心を思考や知識・理解につながるような工夫が必要である。ただおもしろいで終わることなく、科学的に理論立てて思考できるように指導していくことが必要である。また、読み取る力と表現する力を付ける工夫が必要である。 ２　観点別の指導方法について ①　自然現象への関心・意欲・態度 自然現象への関心・意欲を更に高めていくことが重要である。また、関心・意欲を他の観点にどうつなげていくかが課題である。また、安全に観察・実験を行う態度、生命尊重や自然愛護の態度を養う。 ②　科学的な思考・表現 授業や観察・実験レポートを通じて考えたことを表現する場面を多く作り、科学的な思考の充実を図るとともに、考えたこと、理解したことをいかに表現するかを指導していく必要がある。 ③　観察・実験の技能 観察や実験を多く行い、実際に操作を行う機会を多く与えることを更に続けていく。 ④　自然現象についての知識・理解 学習方法の確立、日常の家庭学習の習慣化などについて更に指導する必要がある。	１　内容別の授業改善について 科学的な事象について、一つ一つ順を追って思考し、理解できるように、思考の過程を明確にしていくために、板書やワークシートの工夫をしていく。また、実験の考察の中で、「取り出す力」「読み取る力」「解決する力」を養うために、ワークシートの工夫をする。 ２　観点別の授業改善について ①　自然現象への関心・意欲・態度 身近な現象や身近な事象の中から例を挙げ日常生活との関連付けを行い、演示実験を多く取り入れていく。また、提出物が不十分な生徒への個別の声かけをしていく。 ②　科学的な思考・表現 授業や観察・実験レポートを通じて、スケッチで表現したり、考えたことを言葉や図で表現したりすることや、考えたことを話し合ったり、発表したりする場面を多くしていく。 ③　観察・実験の技能 観察・実験の目的、方法を生徒に十分理解させるとともに、実験中は全体を見渡し、それぞれの班の様子を観察し、その場に応じた個別指導をする。 ④　自然現象についての知識・理解 演示実験や実物・模型を使って説明することや、板書やワークシートを工夫するとともに、なるべく演習の時間を多くとり、知識の定着や理解を深めていく。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第２学年・英語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 英語学習のすべての基礎となる音読の力はついており、ALT との音読テストでは全体で 80%の生徒がおおむねよくできており、英語に対する意識が高いように思われる。しかし、一年次に学習したことを理解していない生徒も多く見受けられる。 ２　観点別分析 ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度 授業への参加や宿題への取り組みはおおむね良好である。その一方で課題を提出しない生徒も 2 割ほどと、忘れ物や提出物忘れが多く目立った。 ② 外国語表現の能力 授業アンケートでは、ペアワークでの会話や英語の歌などの活動に積極的に取り組む生徒が多く見受けられた。今後もチャットやスピーチなどの発表活動を通して、英語らしい発音やジェスチャーなどの表現力をさらに向上させていく。 ③ 外国語理解の能力 定期テストでのリスニング問題や、授業内でのリスニング活動は全体的に得点率が高いが、ペアで英語を使う際、積極的に英語を活用しようとする生徒が全体の 3 割に止まる。授業内での教師の説明を分かりやすくし、出来る限り生徒が話す時間を多く設けたい。 ④ 言語や文化についての知識・理解 語いや文法など、基礎的な内容の復習が必要となるため、引き続き授業内での語彙力向上に努める。	１　内容別の指導方法について ２学年では今後、不定詞や比較、受け身など、1 年の内容を基礎とした積み上げ表現を学ぶため、既習表現が未定着の生徒はますます混乱すると考えられる。既習表現の定着も同時に進めていく必要がある。 ２　観点別の指導方法について ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度 授業アンケートの中で、授業中の学びあいや ALT との授業が楽しいとの意見が多かったが、教師が説明をする時間が多くなり、生徒の参加する場面が少なくなった。今後は積極的に話す雰囲気づくりと、生徒の活動場面を増やしていく。 ② 外国語表現の能力 ペアワークやグループでの活動、ALT とのスピーキングテストの時間を楽しむ生徒は多いが、活動時間が少なかった。伝える相手を作ることで英語表現の必要性を生徒に感じさせる必要がある。また、発音指導の時間も増やしていく。 ③ 外国語理解の能力 初見の英文に触れさせる機会を定期的に作り、根拠となる部分に下線を引かせながら読み進めるよう、指導していく。 ④ 言語や文化についての知識・理解 語いや文法の復習として 1 年生の範囲にさかのぼっての書き取りテストや語いの積み上げ学習を行い、定着を図る。また、自分の弱点を克服する各自の取り組みを今まで以上に推奨したい。（辞書や自学ノート、問題集の活用、音読・暗唱など。）	１　内容別の授業改善について 新出文法の導入時に、既習事項の振り返りを行うことで学習を進めていく。また、少人数の特性を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ２　観点別の授業改善について ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度 仲間と共に学ぶ姿勢を大切にし、今後も意欲の向上を喚起していく。ペアやグループなどの集団を活用し、自分の考えを表現したり共有したりする場面を多く設ける。 ② 外国語表現の能力 既習表現を使った短文英作を多く取り入れ、表現作品作りにつなげていく。また、ALT とのコミュニケーションを通して、生徒自身が英語を活用する場面を多く設ける。 ③ 外国語理解の能力 教科書の Read の単元については予習させず、初見の英文として読み取らせる。また、長文精読と速読の違いを学習し、実際に二つの方法で読む機会を設ける。その際、問題中の答えとなるキーワードやキーセンテンスを見つけ出し、根拠をもって解答するよう指導する。 ④ 言語や文化についての知識・理解 その日に習った表現を定着させる宿題を毎回出し、家庭学習につなげる。また、学期初めのスペリングコンテストのみではなく、帯活動でのビンゴや各レッスン終了後の確認プリントで単語や熟語の定着を図る。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第３学年・国語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 授業に前向きに取り組む生徒とそうでない生徒がみられる。そのため、学力の二極化がおきている。意欲の低い生徒は授業態度だけでなく、課題への取り組み、提出物にも問題がある。積極的に取り組んでいる生徒でも、基礎は身についているが、それを複雑に組み合わせた応用的な問題になると解けない場合が多い。 ２　観点別分析 ①　話す・聞く能力 スピーチでは、メモに頼り相手を見ることができていない。声も小さく聞き手を意識した話し方が身についていない。また、相手の話に疑問や意見をもちながら聞く、ということができている生徒が少ない。 ②　書く能力 例文を示すことで、模倣しながら書くことができるようになってきた。書くことへの抵抗は弱まってきた。しかし、誤字、脱字、表現や原稿用紙の使い方の間違いが未だ多い。また、意見文や批評文において自分の主張を支える根拠が弱く、説得力が弱い文章も多い。 ③　読む能力 語彙が少なく、言葉の意味を正しくとらえていない。物語では間接的に表現された心情の読み取りに課題がある。また、説明文の論理の展開と文章構成を捉える力に課題がある。 ④　言語についての知識・理解・技能 漢字や文法、文学史などの暗記事項を短期記憶で乗り切ろうとしているので、同じ間違いを繰り返す傾向がある。	１　内容別の指導方法について 意欲の低い生徒と前向きな生徒に応じた指導方法の区別や工夫がなかなかできていない。一律の授業展開になっているので個々の課題に対応しきれていない。意欲の低い生徒はつまずきの原因を取り除くこと、前向きな生徒には知識の活用法と思考力を高める指導が必要である。 ２　観点別の指導方法について ①　話す・聞く能力 話す機会が少なかったので人前で話すことに慣れず、基本的な技術が身についていない。また、習ったことを復習する時間、練習のための時間を十分確保できなかった。 ②　書く能力 書く機会が少ないために、未だに基本的なミスをしてしまう。また、作文の苦手意識は克服できたが、例文を示さずに、自分の力だけで論理的な文章を書けるまでに至ってはいない。論拠があいまいで、説得力の弱い文章がみられる。 ③　読む能力 教科書以外の文章を読む機会が少ない。読書の指導をあまり行わなかった。語彙を増やすことと心情を理解すること、論理の展開をとらえることのためには、さまざまな文書に触れることが重要なので、読書量を増やす指導が必要である。 ④　言語についての知識・理解・技能 暗記事項については、短期的な記憶に留まらずこれまでの学習範囲の定着を図る必要がある。文法については理解の個人差が大きい。二学期からの文法はこれまでの知識の定着なしには理解が難しいので、定着の曖昧な生徒への支援が重要である。	１　内容別の授業改善について 一律の授業では、基礎の確認とそれを活用した応用力を養う指導が必要である。単元ごとに身に付ける基礎事項を確認し、それらを組み合わせて解答できるようにする。辞書引きの機会を増やし、単元ごとに本の紹介と読書指導を行う。書いた文章の発表と交流の機会を増やし、互いに批判しあうことで論拠の強化を図っていく。 ２　観点別の授業改善について ①　話す・聞く能力 話し合いを通じて自分の意見を発表する基本的な技術を定着させる。相手・場面を意識して効果的に話し合う力を身に付ける。練習の方法とポイントを生徒に示し、自力で技術を磨けるように支援をしていく。 ②　書く能力 基本的なミスをしないように指導を徹底する。また、例文に頼らずに作文できるようにする。具体的には例文を徐々に簡略化し、最終的には例文無しで作文する。書いた文章を発表、交流し、互いに批判しあい、論拠の強化を図る。 ③　読む能力 辞書を引いて正しい言葉の意味から文章を的確に理解させる。基礎的な読みを積み重ねることで、難解な文章も読みこなせるように指導する。単元に関連した本の紹介を行い、知識と読書量を増やす指導を行う。 ④　言語についての知識・理解・技能 漢字の小テストは継続的に行っていく。文法・古典については１・２年の学習内容の復習を計画的に組み込み、短期記憶によらない基礎の定着を図る。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第３学年・社会科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 本校の生徒は学習に意欲的に取り組んでいる。既習の地理・歴史については、基礎基本の知識・理解は修得できていると考えられるが、一部には、不十分な生徒もみられる。地理に関して、全体的・総合的な理解力が不十分である点や、歴史に関して、大きな歴史的流れの中に個々の事象を有機的に位置づけるまでの修得段階に至っていない状況がみられる。公民については、「現代社会を学ぶ」いう新しい分野に取り組む期待と意欲を見せる生徒がいる半面、戸惑いを表す生徒もみられた。 ２　観点別分析 ①　社会的事象への関心・意欲・態度 全般的には、生徒の関心・意欲は高く、態度も良好であるが、定期考査前の復習などが不十分な生徒も散見され、全体的に一層の努力を求めたい。 ②　社会的な思考・判断・表現 生徒にとって最も難しいと感じられる観点である。そのため、「難しい」と感じる生徒も多いが、一方で、有機的な論理展開に対して、「なるほど」「そうか、面白い」と目を輝かせる生徒もいる。 ③　資料活用の技能 地・歴・公の各分野で、重要な資料についての理解と要点の読み取り・活用が求められるが、定期考査の結果などからは生徒の「二極化」の傾向がみられる。 ④　社会的事象についての知識・理解 生徒が最も意欲的に取り組んでいる観点である。生徒の「社会科学力」にとっては基盤となる重要な内容であり、軽視してはならないと考える。	１　内容別の指導方法について 地理については、全体的・総合的な理解力を充実させる方向で取り組む。歴史については、既習の個別的な知識・理解を、それぞれの歴史的意義を確認・定着させながら、大きな歴史的流れの中に的確に位置づけさせていく。公民については、近代民主主義社会の考え方とその仕組みを、生徒にとって分かりやすく指導し、地・歴・公の理解を相互に関連させて修得させるように図る。 ２　観点別の指導方法について ①　社会的事象への関心・意欲・態度 「社会科を学習すること」が、現代を生きる私たちにとって、「生きていく上で不可欠であること」を実感させることが、この観点に対する生徒の成長を促すポイントであるから、その方向で指導に取り組む。 ②　社会的な思考・判断・表現 地・歴・公の既習事項や生徒自身の生育経験などを踏まえて、さまざまな社会的事象を、生徒自らの問題として引き寄せて「思考・判断」させ、授業の中で「表現」させ、生徒同士で共有させるように取り組む。 ③　資料活用の技能 社会科的に重要な資料を、適切に生徒に提示し、理解を深めさせる中から、活用の技能を高める。 ④　社会的事象についての知識・理解 地・歴・公の各分野で、個々の知識・理解のつながりを持たせ総合的に理解させたうえで、公民を中心に各分野の統一的理解が得られるように指導する。	１　内容別の授業改善について 地理については、全体的・総合的理解を修得させるように、歴史については、大きな流れを理解させるように、意図的に発問し、生徒に考えさせる場面を創っていく。また、必要に応じて、これらの修得に役立つ「授業プリント（ワークシート）」を配布して、一層の促進を図る。公民については、的確な課題を出して、発言や論述をさせる。そして、前述のように、地・歴の理解を基盤に、現代社会を理解させるように意図的に地・歴を振り返る発問をし、統合的な理解を図るように指導する。 ２　観点別の授業改善について ①　社会的事象への関心・意欲・態度 しっかり教師の話を聞き、理解し、自分で考えることを促すために、授業の流れに沿った「授業プリント」を配布し、分かりやすい授業を行う。生徒の取り組み状況を把握するために、ワークブックに取り組ませ、適正に評価する。 ②　社会的な思考・判断・表現 授業中の意図的な発問や課題、前述の「授業プリント」を用いることで、育成を図る。 ③　資料活用の技能 資料集・新聞記事・実物教材や映像など、重要な資料を適切に提示し指導する。また、そのために、実物教材などの充実にも取り組む。 ④　社会的事象についての知識・理解 各知識の重要度に応じて、四段階に分けて表示し、生徒の理解と定着に役立たせる。重要な事柄は、意図的に繰り返し指導する。前時の授業の要点を授業の最初に振り返り、理解促進を図る。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第３学年・数学科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 １学期に取り組んだ「数と式」の領域（多項式・平方根・２次方程式）において、計算処理に関しては良好であるが、複合問題の計算は正答率が低く、演習不足であると思われる。 全国学力調査の結果では、全ての領域において都平均より、数学Aでは8.4～10.9ポイント高く、数学Bでは4.7～11.1ポイント高くなっている。 ２　観点別分析 ①　数学への意欲・関心・態度 数学に対する取組は、概ね良好である。完全習熟度別クラス授業により発言が増えている。 ②　数学的な見方や考え方 論理的な思考を要する課題に対して、授業としては取り組んでいるが、定着までには至っていない。 ③　数学的な表現・処理 計算問題に関しては概ね良好である。しかし、分数・小数に対する苦手意識があり、解き方を理解していても、正解を導けないことがある。同調査では全国平均よりも11.2ポイント高く、都平均よりも9.5ポイント高くなっている。 ④　数量・図形などについての知識・理解 数学的な用語・性質・定理などの定着が不足している部分がある。ただ、同調査では全国平均よりも9.8ポイント高く、都平均よりも8.6ポイント高くなっている。	１　内容別の指導方法について 完全習熟度別クラス授業であるため、教員間で進度を確認しながら、個々の生徒の実態に応じた課題に取り組んでいる。これらのことは、各単元の復習・学力の定着に有効であった。 「図形」の領域に関しては、２学期以降の扱いになるが、模型や図やＩＣＴ機器を利用して視覚的に取り扱い、定着を図るための演習と共に、性質・定理の内容把握を深める指導を行っていきたい。 ２　観点別の指導方法について ①　数学への関心・意欲・態度 通常の学習時間の中で、様々な数学的事象に関連付け数学的興味を喚起できるよう、今後も指導していく。 ②　数学的な見方や考え方 問題の正確な内容を把握させ、何を問われているのかを理解させるとともに、解き方を確認しながら考えを深める授業にしていく。 ③　数学的な表現・処理 小テストや復習課題を行い、多くの問題を解いて、定着を図っていく。 ④　数量・図形などについての知識・理解 機会あるごとに、前学年で学習した内容も含め、数学的用語・性質・定理の確認をしていく。	１　内容別の授業改善について 「数量関係」・「図形」の領域については、１・２年の内容を確認しながら進めるようにする。また、計算問題などに時間をかけ、その際には分数・小数を扱い、計算力を確実に定着させる。 また、完全習熟度別クラス授業であるため、各コースとも、より効果的な内容となるように課題を精選し、個々の生徒に応じた内容を提示していく。 ２　観点別の授業改善について ①　数学への関心・意欲・態度 生徒の興味を喚起できるように教員間で内容を精査し指導する。 ＩＣＴ機器を使う場面を増やす。 ②　数学的な見方や考え方 個々の生徒の実態に合わせた課題の工夫をしていくとともに、問題解決への方法を図・表・ＩＣＴ機器を利用して説明し、理解させていく。 ③　数学的な表現・処理 問題演習を多く取り入れ確実に定着させる。また、小テスト等を利用して、定着状況の把握を行い、生かしていく。 ④　数量・図形などについての知識・理解 機会あるごとに数学的用語・性質・定理を確認し、それらがどう結びついているかを関連付けながら、授業を行っていく。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第３学年・理科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 「生物の成長と生殖」の単元では、形質の伝わり方やメンデルの遺伝の法則を含め、おおむね良好な定着が見られた。「水溶液とイオン」、「化学変化と電池」の単元では、電流の流れるしくみや電池の中で起きる変化をイオンで考える等で、理解の不十分な点が見られた。 ２　観点別分析 ①　自然現象への関心・意欲・態度 達成率の平均は 89%であった。全体的に授業に前向きに取り組んでおり、発言も多いが、提出物を期限内に出せない生徒が少数存在し固定化している。 ②　科学的な思考・表現 達成率の平均は 40%であった。実験レポートの考察への取り組み等の中で、自然現象の意味や理由を考え、記述させる指導に工夫が必要である。 ③　観察・実験の技能 達成率の平均は 59%であった。おおむね良好であるが、顕微鏡の使い方、スケッチの仕方、薬品や実験器具の扱い方等、繰り返し復習しながら指導する必要がある。 ④　自然現象についての知識・理解 達成率の平均は 81%であった。特に知識の定着が高い。	１　内容別の指導方法について どの分野の内容についても、理科に対する関心は高い。関心を思考や知識・理解につながるような工夫が必要である。ただおもしろいで終わることなく、科学的に理論立てて思考できるように指導していくことが必要である。また、読み取る力と表現する力を付ける工夫が必要である。 ２　観点別の指導方法について ①　自然現象への関心・意欲・態度 自然現象への関心・意欲は高い。今後、更に関心・意欲・態度を高めていくことが重要である。また、関心・意欲を他の観点にどうつなげていくかが課題である。また、安全に観察・実験を行う態度、生命尊重や自然愛護の態度を養うことも重要である。 ②　科学的な思考・表現 授業や観察・実験レポートを通じて考えたことを表現する場面を多く作り、科学的な思考の充実を図るとともに、考えたこと、理解したことをいかに表現するかを指導していく必要がある。 ③　観察・実験の技能 観察や実験を多く行い、実際に操作を行う機会を多く与えることが必要である。 ④　自然現象についての知識・理解 学習方法の確立、日常の家庭学習の習慣化などについて更に指導する必要がある。	１　内容別の授業改善について 科学的な事象について、一つ一つ順を追って思考し、理解できるように、思考の過程を明確にしていくために、板書やワークシートの工夫をしていく。また、実験の考察の中で、実験班の中で話し合ったり発表することで、考えを共有する。 ２　観点別の授業改善について ①　自然現象への関心・意欲・態度 身近な現象や身近な事象の中から例を挙げ日常生活との関連付けを行い、演示実験を多く取り入れていく。また、提出物が不十分な生徒への個別の声かけをしていく。 ②　科学的な思考・表現 授業や観察・実験レポートを通じて、スケッチで表現したり、考えたことを言葉や図で表現したりすることや、考えたことを話し合ったり、発表したりする場面を多くしていく。 ③　観察・実験の技能 観察・実験の目的、方法を生徒に十分理解させるとともに、実験中は全体を見渡し、それぞれの班の様子を観察し、その場に応じた個別指導をする。 ④　自然現象についての知識・理解 演示実験や実物・模型を使って説明することや、板書やワークシートを工夫するとともに、なるべく演習の時間を多くとり、知識の定着や理解を深めていく。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第３学年・英語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 修学旅行レポート、コミュニケーションテストなどから表現することには意欲的で、関心の高さが見られた。しかし、書くことについては課題が大きい。正しい語彙の習得、文法事項の定着に不十分な点が見られた。 ２　観点別分析 ①　コミュニケーションへの関心・意欲・態度 １学期の評定資料でのこの到達率の平均が７５．２％だった。授業中の発言も多く、関心、意欲の高い生徒が多い反面、提出物などの課題への取り組みが十分でない生徒も少なくない。 ②　外国語表現の能力 １学期の評定資料でのこの到達率の平均が７２．４％だった。表現することには高い関心があるのだが、正しい語彙の習得、文法事項の定着が十分でないことから、表現の幅が広がっていない。 ③ 外国語理解の能力 １学期の評定資料でのこの到達率の平均が７３．５％であった。教科書の音読に力を入れるだけでなく、教科書以外の教材も使い多読を心がけていることで一定の成果は見られる。しかし、語彙の習得、文法事項の定着の十分でない生徒にとっては、精読の指導に工夫が必要である。 ④　言語や文化についての知識・理解 １学期の評定資料でのこの到達率の平均が８４．９％であった。定着の程度は概ね良好と言える。	１　内容別の指導方法について 第３学年では、第１・２学年で培われた「音声重視」の指導を継承しつつ、音声言語から文字言語への重点の移行を徐々に行っている。第２学年の指導事項の定着が課題である。 ２　観点別の指導方法について ①　コミュニケーションへの関心・意欲・態度 英語への意欲をさらに高めるため、互いに学び、認め合う集団作りを目指していく。また、既習事項を使い、反復練習を重ね、文法事項の定着、表現力の向上を目指す指導の工夫が必要である。 ②　外国語表現の能力 表現力の向上のため、スピーチや発表の機会を増やすとともに、「書くこと」においては、“正確さ”を課題に指導を行う必要がある。 ③　外国語理解の能力 リスニング教材の活用を始め、授業内での教師の英語(Teacher Talk)の工夫、外国人講師の活用を充実させ、理解を深めていく。また、「読むこと」では、まとまった量の英文を読む練習は続けていき、精読の指導を工夫し、読解力向上を図っていく必要がある。 ④　言語や文化についての知識・理解 既習事項を繰り返し指導し、さらなる定着を図る工夫が必要である。	１　内容別の授業改善について 第３学年の重点課題は、指導事項の定着である。その対策として、既習事項を使うコミュニケーションの機会を設け、反復練習を重ね、さらに表現の幅を広げていく。 ２　観点別の授業改善について ①　コミュニケーションへの関心・意欲・態度 英語の歌やペアワークなどのコミュニケーション活動を多用し、パフォーマンステストなどで適切に評価をすることで意欲を高めていく。 ②　外国語表現の能力 教科書音読、暗唱を重視し、基礎的な英語表現を身に付けた後、その表現を使いペアワーク、発表などの表現活動に取り組む。外国人講師との面接等を学期ごとに設定する。また、「正しく書くこと」では、ライティングノートの活動を続け、定期的に点検して意欲を継続させる。 ③　外国語理解の能力 「聞くこと」では授業中の Teacher Talk だけでなくリスニングテストなども定期的に活用していく。「読むこと」ではまとまった量の英文を読む機会を増やすとともに、深く読み取る活動も取り入れていく。 ④言語や文化についての知識・理解 既習事項を繰り返し学習できるワークシートを継続して活用し定着を図る。また語彙に関しては、受容語彙と発表語彙に分けて指導し、発表語彙に関してはスペルまで書けるように指導する。